

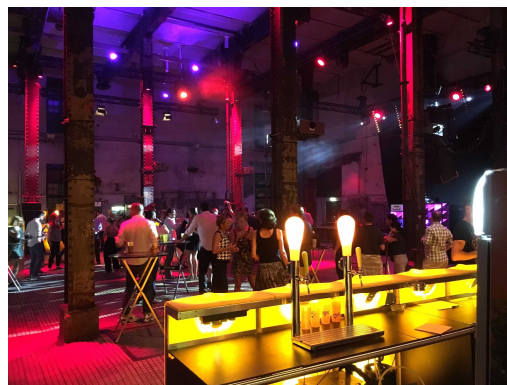
## EUROPEAN COLLEGE OF SPORT SCIENCE 2016 に参加して

生命環境科学系 修士課程 2 年 田野崎はるか

この度「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受け、2016 年 7 月 6～10 日にかけて、オーストリアはウィーンで開催された 21<sup>st</sup> annual congress of the EUROPEAN COLLEGE OF SPORT SCIENCE 2016 に参加した。本学会は毎年ヨーロッパで開かれており、スポーツ科学全般を取り扱う中規模の国際学会である。自身の研究成果の発表と、最新の研究の情報収集や意見交換を行い、有意義な 5 日間を過ごすことができた。



学会会場の様子。



アフターパーティの様子。

私は学会 3 日目に “The Effect of Meter Structure on Bimanual Rhythmic Tapping” というタイトルで口頭発表を行った。本研究では、拍子構造のリズムを持った聴覚合図が運動制御にどのような影響を及ぼすかということ、両手のタッピング課題によって明らかにした。3 日目の夕方という時間帯であったためか、発表会場では立ち見の人が出るほど沢山の研究者の方が発表を見に来てくださった。また、同じ部屋でベテランの研究者の方も発表を行っており、その方の発表を聞くことで発表の仕方や場の雰囲気作り、質問への答え方など同じ立場にいないと分からないことを学ぶことが出来て、とても勉強となった。アフターパーティではライブで音楽を聴きながらご飯を食べる場が設けられており、楽しみながら他国の研究者と交流を図ることができた。

今学会が初めての国際学会であったが、修士課程に進学してから始めた研究をまとめ、このような大きな場で口頭発表を行えたことは自信に繋がった。非常に緊張していたためか正直発表中の記憶は薄ら薄らとしか残っていないが、今後も学会発表を積極的に行い研究者としてのキャリアを積んでいきたいと感じた。今回このような機会をいただいて感謝している。